

ニュース・玉川大学ミツバチ科学研究施設から

ミツバチ科学研究施設

図書・論文・資料リスト (1994)

(本誌の掲載論文・記事を除く)

- Asian Apiculture (L. R. Conner et al. eds.). Wicwas Press, Connecticut. pp. 704.
- Nakamura, J. and M. Matsuka. Honey bees trim brood on the comb. p. 226-230.
- Ono, M. and M. Sasaki. Defensive strategy of *Apis cerana japonica* against attack by *Vespa* spp. p. 231-237.
- Sasaki, M. and M. Ono. Pollination ecology of the Japanese honey bee, *Apis cerana japonica*, and the oriental orchid, *Cymbidium pumilum*. p. 391-397.
- Yoshida, T. and M. Yamazaki. Difference in drone congregation areas of *Apis mellifera* and *A. cerana japonica* as a reproductive isolation mechanism. p. 99-103.
- 花粉学辞典 (日本花粉学会編). 朝倉書店. 東京. pp. 454.
- 佐々木正己 (編集委員, 分担執筆).
- 小野 正人 (分担執筆).
- 松香 光夫 (分担執筆).
- みつばち (アルク出版企画+ラグタイム編). 立風書房. 東京. pp. 223.
- 小野正人. いったいミツバチは何種あるのか? p. 90-92. ミツバチの必殺ふとん蒸し戦法. p. 106-107.
- 酒井哲夫・松香光夫. ミツバチがつくる物と私たちの健康. p. 97-105.
- 吉田忠晴. ミツバチの配偶行動. p. 54-56.
- 松香光夫. ハチミツは, 大昔からの健康食. わたしの健康 9502:82-83.
- 松香光夫. 疲れを解消し胃腸を強化するハチミツはダイエットに最適で美肌効果も抜群. 壮快 21 (5): 76-77.
- 松香光夫・増田 徹・中村 純. パーソナルコンピュータによる昆虫の行動観察記録システム. 玉川大農研報 34:35-43.
- 中村 純. 適応としてのトウヨウミツバチの逃去. 玉川大農研報 34:81-102.
- Ono, M., M. Mitsuata and M. Sasaki. Use of introduced *Bombus terrestris* worker helpers for rapid development of Japanese native *B. hypocrita* colonies. Appl. Entomol. Zool. 29: 413-419.
- 佐々木正己. 花粉学実験講座, 養蜂技術. 日本花粉学

会誌 39:151-159 (1993).

- 佐々木正己 (著). 養蜂の科学. サイエンスハウス. 東京. pp. 159.
- 佐々木正己. ポリネーションへのミツバチとマルハナバチ類の効率的, 多面的利用化. 蚕糸・昆虫研資料 17:108-110.
- 吉田忠晴. 在来種ニホンミツバチと導入種セイヨウミツバチの雄蜂の集合場所の相違. 応動昆 38:85-90.
- Yoshida, T. Interspecific instrumental insemination using mixed semen of Japanese and European honeybees (Hymenoptera, Apidae) Appl. Entomol. Zool. 29:464-467.
- 吉田忠晴. ミツバチの人工授精—昆虫の中で人工授精の技術が確立した唯一の例—. 化学と生物 32 (9): 564-566.
- Yoshida, T., J. Saito and N. Kajigaya. The mating flight times of native *Apis cerana japonica* Radoszkowski and introduced *Apis mellifera* L. in sympatric condition. Apidologie 25:353-360.

NHK での放映

NHK スペシャル「生命, 40億年はるかな旅」が1994年11月24日に放映された。

番組の中でミツバチが取り上げられ, ニホンミツバチの防衛行動や収穫ダンスが紹介された。この撮影には, 玉川大学昆虫研究室, ミツバチ科学研究施設が全面的に協力。佐々木正己教授による解説, 説明が行なわれた。

番組に関連した内容は, NHK 出版から「生命, 40億年はるかな旅 4. 奇跡のシステム “性” 昆虫たちの情報戦略」として販売されている (3200円)。

編集後記

昨年はスズメバチの異常発生がみられたが, 阿部博士からは, スズメバチ・パワーの秘密ともいえる幼虫の唾液成分の寄稿を受けた。現在, 人工スズメバチ唾液の臨床実験も進められ, ヒトについての作用については興味深いところである。坂氏にはスズメバチの防除だけではなく, 研究者にも愛用されている防護服の開発の経緯を, 本学の卒業生である氏永氏には, 撃退スプレーについて解説いただいた。毎年数回, ヨーロッパに足を運ばれ施設栽培の技術向上に力を注いでいる岩崎氏からマルハナバチの導入について, 福田氏からはミツバチランを求めた雲南一人旅について紹介いただいた。(忠)